



国家公務員共済組合連合会

虎の門病院 広報誌 [ティーマガジン]



国家公務員共済組合連合会
虎の門病院
TORANOMON HOSPITAL

T-MAGAZINE

008

TAKE FREE

〒105-8470
東京都港区虎ノ門2丁目2番2号
TEL:03-3588-1111(代)

特集

がん治療と就労の 両立をめざして

(放射線による乳がん治療と前立腺がん治療)

病院の現場を探訪!

TORA Watch! 「がん相談支援センター」

TALK SESSION

「がん相談支援センター×社会保険労務士」

がん治療と就労の両立を
「プロ目線」でトータルサポート

リエゾン便り お酒にまつわる話



やさしさで、つながっていく

2021
10
October

重要な
お知らせ

● T-MAGAZINEアンケートご協力をお願い

このたび当院広報誌「T-MAGAZINE」についてアンケートを実施することとなりました。今後の広報活動に活かしたいと思っておりますので、ご協力いただける方は右記のQRコードにアクセスしてご回答をお願いいたします。



がん治療と就労の両立をめざして

虎の門病院の放射線治療

放射線治療は、がんの治癒やがんによる症状を和らげる目的で行われますが、治療は毎日行うため、通院しやすいことがとても大切です。当院は、通いやすい立地と治療の時間帯を提供することで、患者さんの「がん治療と就労の両立」をささえています。



虎の門病院の放射線治療の特徴

私たちは放射線治療を必要とする全ての患者さんに対し、高精度の放射線治療と体に負担の少ないやさしい医療の提供をめざしています。

1 働きながら治療が受けられます

出勤前、勤務後の時間を有効にご活用いただけるよう、職場からアクセスしやすい虎ノ門という都心の立地に加えて朝夕の時間帯の治療にも対応しています。

※虎の門病院は山の手線の主要駅からいずれも30分以内でアクセス良好です。

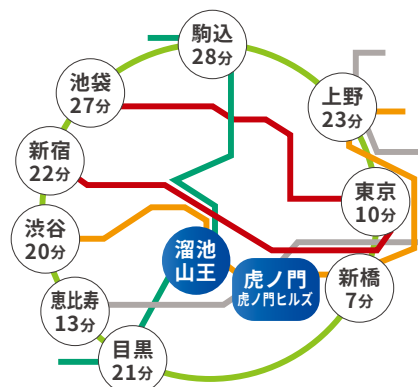
<放射線治療時間> 朝8:30~12:00・13:00~18:30

2 高精度な放射線治療を提供します

腫瘍に正確に放射線を集中し、正常組織へのダメージを最小限に抑える高精度な放射線治療を実施しています。トモセラピーとCTリニアックを用いて行う、強度変調放射線治療(IMRT)や体幹部定位放射線治療などの手法があります。

3 総合病院の強みを生かして、基礎疾患がある方、高齢者にも適切な治療を提供します

ペースメーカー使用中や人工透析中の患者さんにも担当科と協力して治療を行います。



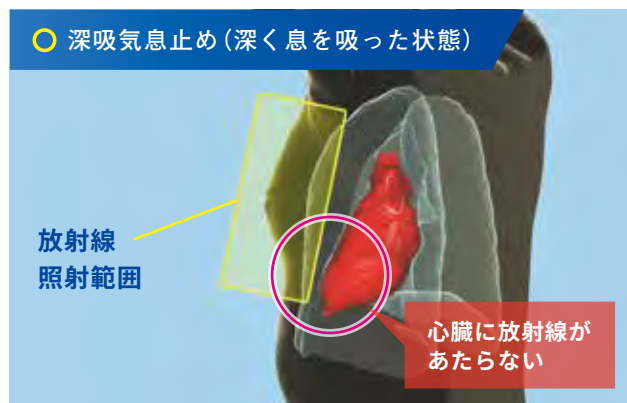
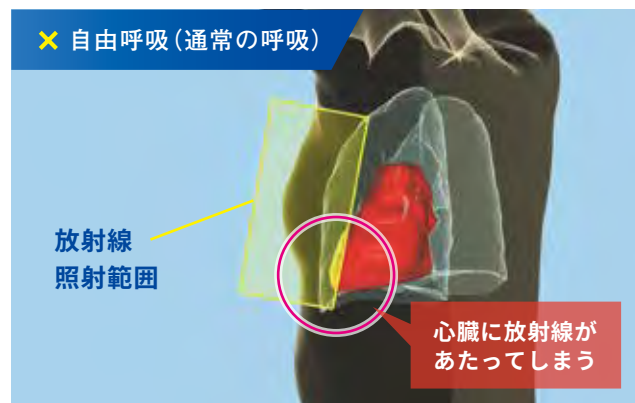
● 銀座線	虎ノ門駅	徒歩6分
● 日比谷線	虎ノ門ビルズ駅	徒歩3分
● 銀座線・南北線	溜池山王駅	徒歩10分

主な対象疾患

今回は、主に乳がん、前立腺がん、肺がんについてご紹介しますが、虎の門病院ではその他のがんやがんの転移に対しても積極的に放射線治療を行っています。

放射線による 乳がん治療

乳がんの手術後に乳房やその周辺に放射線治療を行う場合があります。治療回数は5週間で25回または約3週間で16回行います。回数や副作用の違いを説明し、患者さんの希望に合わせて適切な治療を提案します。また、左乳がんでは、心臓の負担を減らすため「深吸気息止め照射」を行っています。この治療では深く息を吸った状態で呼吸を止めて放射線を照射することで、心臓にあたる放射線が減少し将来の心臓の副作用を軽減します。



POINT! 深く息を吸い呼吸を止めた状態(約20秒)で放射線を照射することで、心臓への副作用を軽減します。

治療中の乳房のケア



乳房の皮膚はとても繊細なため、放射線治療により赤くなったり乾燥したりなど皮膚の障害が現れます。

虎の門病院では看護師が中心となり医師や女性技師と話し合いながら、治療中の乳房のケアに積極的に取り組んでいます。治療前の皮膚の状態や患者さんのお手入れ方法を把握し、治療中は自覚症状を聞いたり看護師が皮膚の状態を確認したりしながら、放射線治療後の皮膚の回復も見据えて保湿剤や軟膏の使用法などをご案内しています。

乳がん治療の治療例



都内の会社勤務の乳がんの患者さんです。

乳房温存手術後に放射線治療を行うことになり、手術後1ヶ月して放射線治療科を受診しました。医師から放射線治療の説明を受け、勤務後の18時から16回の治療を予約し、看護師と乳房のケアについても話しました。放射線治療10回目に皮膚の乾燥感が目立つようになったので、保湿剤の使用を開始しました。仕事を通常通りこなしながら、治療は無事終了し、治療後2週間程度で皮膚の刺激感もなくなりました。

放射線による 前立腺がん治療

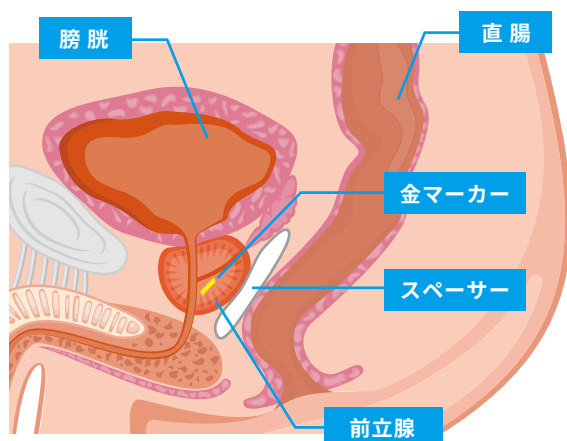
虎の門病院では、骨やリンパ節に転移のない前立腺がんに対し、2週間で5回照射する体幹部定位放射線治療と4週間で20回または6週間で28回照射する強度変調放射線治療を行っています。回数や副作用の違いを説明し、患者さんの希望にあわせて適切な治療を提案します。また、前立腺がんの手術後にPSA※が上昇した場合に、前立腺のあった部分に33～35回（7週）の放射線治療を行っています。どの治療も1回約15分です。

※PSAは前立腺がんの診断に使われるマーカー。その値が高いほど前立腺がんの可能性は高くなる。



前立腺がん治療で活躍するトモセラピー

治療精度を高め、副作用を軽減する取り組み

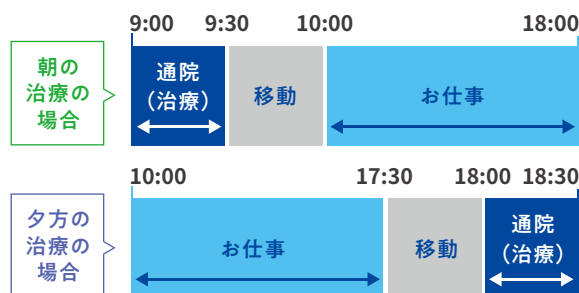


虎の門病院では前立腺がんの放射線治療を行う際に、前立腺内に金マーカーを、前立腺と直腸の間にスパーサーの挿入を推奨しています。金マーカーを使用すると、より正確に前立腺に放射線を照射し、直腸や膀胱にあたる放射線を減らすことができます。

また、スパーサーを挿入することで直腸が前立腺から離れるため、直腸に放射線があたることによるダメージが減少し、直腸出血などの副作用が少なくなります。この効果は治療回数が少ないほど大きく、特に5回の治療では直腸の副作用を大きく減らすことができます。スパーサーは治療後に徐々に吸収されてなくなります。

前立腺がん治療の治療例

< 前立腺がん放射線治療 平日の通院治療例 >



およそ2週間のうち計5回の治療を行います。平日仕事があっても午前または夕方での通院・治療が可能です。

70代の転移のない前立腺がんの患者さんです。出張が多く、仕事を休むことができないため、なるべく短期間の治療を希望していました。治療法の違いについて医師から説明を受け、副作用との兼ね合いを検討して、仕事の調整がしやすい朝9時から5回の治療を選択され、スパーサーを挿入して治療を行いました。治療終了1ヶ月後の診察の際に、「仕事を休まずに通院でき、1日おきの治療で思っていたより副作用も少なく良かった。」とお話されていました。

PICK UP

アルファ線で前立腺がん
骨転移を体の内側から狙い撃ち

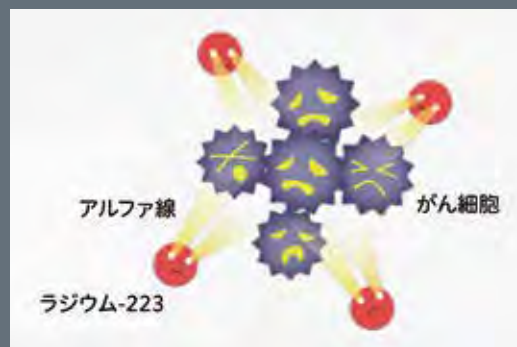
核医学治療（内照射療法）

ホルモン療法が効かなくなった状態の前立腺癌骨転移を、アルファ線という放射線を出す「ラジウム-223」で体の内側から治療する方法（核医学治療）が開発され、虎の門病院でも行うことができます。実際の治療では、塩化ラジウム(223Ra)注射液という薬を静脈注射すると、代謝が活発になっているがんの骨転移巣に多く運ばれ、そこからアルファ線が放出されて骨に転移したがん細胞を近くから直接攻撃します。通常の放射線は、周りの正常な細胞にもダメージを与えてしまいましたが、アルファ線はがん細胞を破壊する力は強いにも拘らず、その効果がおよぶ範囲は体内では0.1mm未満であるため、正常細胞への影響を少なく抑えることができます。

体の外側まで放射線が届くこともないので、入院の必要はなく4週に1回の外来通院を合計6回行うことで治療できます。1回の治療にかかる時間は診察も含めて30分から1時間程度です。



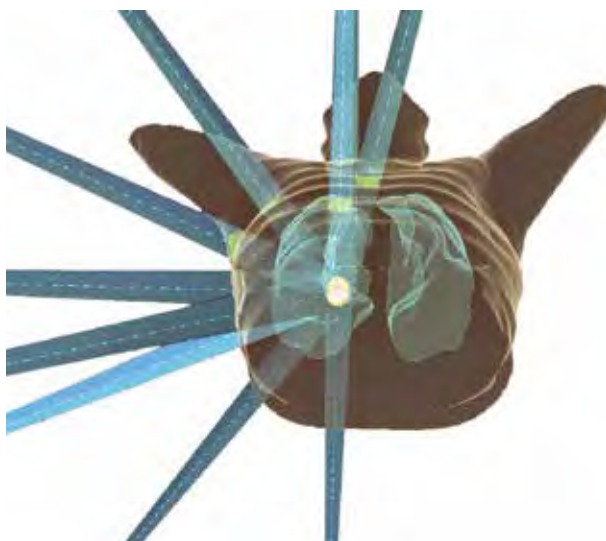
引用：ラジウム223患者さん向けパンフレットより引用



CASE

肺体幹部定位放射線治療

左肺上葉の腺がんの患者さんです。胸腔鏡で左肺上葉切除術を行いました。CTで経過観察をしていましたが、3年の経過で新たに病変が増大したため、がんを強く疑いました。高齢であり、心臓にも持病があり、肺がん術後でもあるため、再度の手術は体力的に自信がありませんでした。患者さんと相談の上、手術に比べて体への負担の少ない、肺体幹部定位放射線治療を行うことになりました。1回1時間で4日間の治療です。くり返し息を止めながら放射線を照射しました。治療後の経過は良好で現在も経過観察をしています。肺体幹部定位放射線治療は、リンパ節や他の臓器に転移のない肺がんが対象で、手術ができない、あるいは手術をしたくない患者さんに行っています。



足元側からの肺への照射イメージ



第8回は
退院支援看護師の
飯尾と中野が
をご紹介します。



PICK UP

働きながらかん治療されている
皆様に応援します！

がん患者の約3人に1人は、20代から60代でがん罹患し（平成29年全国がん登録罹患数・率報告）、多くの方が仕事を持ちながら通院していらっしゃいます。当院では、医師・看護師・ソーシャルワーカー・薬剤師・栄養士など様々な専門職が連携し、がん治療と職業生活の両立をめざした支援を行っています。



がん相談支援センター 03-3588-1171(直通) 受付時間:平日9:00~16:00

当院の取り組みの一部をご紹介します。

入院前面談

安心して入院し、治療後、退院できるように、入院前に看護師・薬剤師・栄養士が体調の変化やご自宅での様子、介護サービスの利用状況、服用されているお薬、食物アレルギーなどのお話を伺います。



病棟看護師・退院支援看護師・ソーシャルワーカーが連携して、チーム一丸となって応援します。

退院支援カンファレンス

病棟看護師・退院支援看護師・ソーシャルワーカーなどが患者さんの退院後の暮らしを考えながら、サポートが必要かどうか支援の必要性について話し合います。



患者さんの気持ちを伺いながら、一緒に考えていきます。

術前検査、麻酔科、手術室看護師の問診

入院後に行っていた検査、麻酔科医師・手術室看護師の術前訪問を外来で行うことにより入院期間を短縮し、早期の社会復帰をめざします。



入院翌日の手術が可能になりました。

がん相談支援センター・ がん副作用マネジメント外来

看護師・ソーシャルワーカー・心理士が、がんに関する様々な相談に応じます。また、様々な分野の専門家で構成される「がん副作用マネジメント外来」が開設されました。まずは主治医にご相談ください。



仕事をしながら治療を続ける患者さんにとって、とても心強い味方ですね。

鈴木 亜優
AYU SUZUKI

藤田 久子
HISAKO FUJITA



左から藤田 久子(特定社会保険労務士/社会福祉士/キャリアコンサルタント)・鈴木 亜優(看護師/がん相談支援センター)



がん治療と就労の 両立を「プロ目線」で トータルサポート

がんに罹患したとき、「体力が低下しても仕事を続けられる?」「生活費が心配」「休みを取ったら収入が低下した」など、仕事やお金に関する悩みが生じることは少なくありません。虎の門病院のがん相談支援センターでは、社会保険労務士やファイナンシャルプランナー(FP)とタッグを組んで、当院のがん患者さんの課題解決支援に取り組んでいます。お問い合わせは、がん相談支援センターまで。

仕事とお金は生活を 支えるために欠かせない

鈴木: 当院ではがん患者さんやご家族への様々なサポートを行っており、その一つが「仕事とお金のお悩み個別相談会」です。治療と仕事の両立をめざすがん患者さんは多く、国も平成30年(2018年)の診療報酬改定で「療養・就労両立支援指導料」を創設するなど、積極的に支援を後押ししています。

藤田: 年間で約100万人が新たにがんと診断されていますが、そのうち約3割が働く世代。生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の減少や定年の延長などを考えれば、治療を受けながら働き続けることは本人、企業、社会のいずれにとっても重要です。治療の間、頻繁に訪れる病院で、仕事との両立を支える意義は大きいですね。

鈴木: この相談会は月1回、各3枠を受け付けており、社会保険労務士とファイナンシャルプランナー、そして看護師やメディカルソーシャルワーカーの相談員が同席します。職場の労務管理や支援制度、お金の専

門家を交えて、約50分間じっくりと個別に、相談に乗っています。

藤田: 医療保険や雇用保険、年金の手続きをはじめ、複雑な制度を分かりやすく伝えるよう心がけています。教育費や住宅ローンと治療費の兼ね合い、民間保険の見直しなども検討が必要です。「仕事とお金は生活を支えるために欠かせないもの」という視点で、患者さんが直面する課題をトータルで考えていきます。

たとえがんに罹患しても 自分らしい人生を送るために

藤田: かつては「病院では仕事の話ができず、会社では病気のことが話せない」雰囲気があったように思います。しかし、近ごろは企業の姿勢も変わりつつあり、自身のがんをまわり伝える患者さんが増えています。特に治療が長期にわたるときは、自身の希望と今後の見通しを含めて、職場に病気のことを伝えたほうがうまくいくケースが多いです。

鈴木: 一人で悩み、退職してからがん相談支援センターに相談に来る患者

さんもありますが、退職後では利用できない支援制度もあります。できれば大きな決断をする前に私たちを頼ってほしいです。仕事やお金の問題が解決することで、治療に前向きになれる方も少なくありません。

藤田: 話し合いの中で、新たな選択肢が見つかることもありますね。仮に退職を選ぶにしても、不本意な思いで寂しく辞めるのと、相談を重ねて納得の上で辞めるのとでは、まったく意味合いが違ってきます。

鈴木: 治療と仕事の両立に悩んだときは、決して一人で抱え込まないでください。患者さんが安心して治療を受けながら、より希望に近いかたちで生活を送れるようにすることが医療の一つのゴールであり、私たち医療者の役割でもあると思っています。

藤田: ここまで熱意を持って治療と仕事の両立をサポートする病院は多くないと思います。「病院は治療するだけの場所」というこれまでの常識を超えて、たとえがんに罹患しても自分らしい人生を送るお手伝いができればうれしいです。



リエゾンチームからみなさまへ リエゾン便り



同僚や友人とお酒を飲みながら語らう時間は、本当にかげがえのないものです。

残念ながら、コロナ禍に突入して以来、そんな日常は遠くなってしまいました。

先日、友人から「一人でお酒を飲むようになったら、飲酒量が増えた」という話を聞きました。

みなさまの中にも、同じように感じておられる方がいるかもしれませんね。

今回のリエゾン便りは、そんなお酒にまつわるお話です。

さて、ここで質問です。

Q: 節度ある適度な飲酒量とはどのくらいでしょうか？

A: 1日平均純アルコール約20g程度(図参照)です。

女性や高齢者、そして少量の飲酒で顔が

赤くなる方は、より少ない量が適当です。

飲酒習慣がない方にこの量の飲酒を

勧めるものではありません。

多い？少ない？みなさまは、どのように感じましたか？

ちなみに、「問題飲酒」と診断された約8割が、「自分の飲酒量は正常」と答えたそうです。お酒の

問題は、自分では気づきにくいものなのですね。お酒の飲み方がセルフチェックでき、飲酒についていろいろ

学べるウェブサイトも多くあります。よかったらのぞいてみてください。

ところで「睡眠薬を飲むより、お酒を飲んで寝る方が安全」という声を時々耳にします。これは間違い

です。次の理由から眠るための飲酒はお勧めしません。眠るための飲酒は、飲酒量が増加しやす

く、気持ちの落ち込みや睡眠の質の悪化につながると言われています。

正しい知識で適度な飲酒を楽しみましょう。それでは今回はこの辺で。



リエゾンチーム

※リエゾンとはフランス語で「つなぐ」という意味です。

リエゾンチームは、精神科医師、精神看護専門看護師、臨床心理士で構成されています。主に、入院中の患者さんやご家族の心理的サポートをしています。



※上記アルコール量は、あくまで目安です。

※疾患のある方は、必ず主治医に飲酒の可否を相談してください。

● 人間ドックに関するお問い合わせ

虎の門病院附属 健康管理センター・画像診断センター
〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1 赤坂インターシティAIR5階

TEL

03-3560-7777

平日

11:00 ~ 16:30 (土・日・祝日は休み)

WEB

虎の門病院 人間ドック

検索

<https://toranomon-dock.kkr.or.jp/sp/>
スマートフォンの方はコチラから



国家公務員共済組合連合会
虎の門病院
TORANOMON HOSPITAL
〒105-8470 東京都港区虎ノ門2丁目2番2号
TEL: 03-3588-1111(代)
<https://toranomon.kkr.or.jp/>



国家公務員共済組合連合会
虎の門病院 分院
TORANOMON HOSPITAL KAJIBAYA
〒213-8587 神奈川県川崎市高津区梶ヶ谷1丁目3番1号
TEL: 044-877-5111(代)
<https://toranomon.kkr.or.jp/kajibaya/>

〒213-8587 神奈川県川崎市高津区梶ヶ谷1丁目3番1号
TEL: 044-877-5111(代)
<https://toranomon.kkr.or.jp/kajibaya/>